

何を伝えたいかを絞り込み、記憶に残る話を心がけます

保健師 八田冷子

鹿児島で初めて先生に出会った時、「夕張で学んだことを全国に発信したい」という先生の熱い思いを感じるとともに、経歴も含め、鹿児島ではあまり出会った事のない、とても面白い、行動力も備えた先生というイメージでした。お話を聞いたのは、確か鹿児島の「医療介護塾」だったと思います。

夕張で学んだとおっしゃり、そしてそれを裏打ちする様々なデータを駆使したお話にとっても惹きつけられました。

次に先生のお話を聞いたのは、ことし4月の福祉と医療・現場と政策の「新たなえにし」を結び会でした。社会保険旬報について、ついに森田先生の「全国への生デビュー」、時間が限られている中でしたが、参加者へのインパクトはとても大きかったと感じました。

そして今回の講義、森田先生の話にさらに磨きがかかったと感じました。

最後におまけではなされた「伝える力～プレゼンテーション」をみごとに実践し、シンプルでわかりやすく、時にはデータで、時には映像で、そして自分の伝えたいことを画面一杯の文字で、記憶に残る講義でした。

「医療崩壊で夕張市民が幸せになった」それは「絆貯金」と「市民の意識改革」「生活を支える医療」という3つのキーワードが頭に植えつけられました。「地域包括ケア」の考え方の根底にあるもので、それはどの地域でも必要ですが、それぞれ大小があり、その地域にしかない形で実現していかなければならないものだとは確信しています。

今回の、先生のプレゼンテーションで学んだことは、発信力の善し悪しは、丁寧な準備はもちろんです、対象にあわせてどう伝えるか、相手を知る事の大事さでした。

私はこの3月まで県職員として、講義の依頼を受けることも多かったのです。対象がどんな方々かということはもちろん事前に確認はするのですが、今回の先生のように何を伝えたいか、という絞り込みや、記憶に残る話はとてもできていなかったと反省しています。

そしてこの4月から、真っ白な看護学生を対象に大学で教える立場になり、改めて、何を伝えたいか、学生の記憶に何を残したいのか、そしてそれが双方向のコミュニケーションとなっているかなど、考え、自分自身のプレゼンテーション能力を高めていきたいと強く感じました。

ゆきさんの講座は本当に毎回、毎回、私のために用意してくださったのでは、と勝手に感じています。なかなかその日にWeb受講ができないのがもっかの悩みです。でもこうして講師の先生方に礼状風レポートを書く事が自分自身のスキルアップと信じて頑張っていくと思っています。

本当にありがとうございました。そしてまた鹿児島で「飲ん方」しましょうね。